

南 一 弘 氏

街を語る

「街に行く」
第100回記念
特別企画

南 一 弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID 都市開発（旧松下興産）の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

本誌連載「街に行く」が足掛け9年、100回に到達した。

愛読者は多く、取材先で盛り上がることもしばしばである。

南一弘氏ご本人に登場いただき、「魅力ある街」を語ってもらった。

利便性とのトレードオフ

——「街に行く」が今回で100回目を迎えました。感想を一言お願いします。

南 連載を通じて、国内75か所、米国を中心に海外25か所の街を訪ね歩いてきたことになります。内外さまざまな都市をみるなか、改めて日本にはまだまだ魅力を持つ街があることを確認した一方、かつての魅力や活力が失われつつある現実も目の当たりにしてきました。連載を通じて実感したことは、都市や街は、それぞれの個性があるから面白いということです。

——近年の地方都市はさながら金太郎飴のように、どこを切っても同じ没個性になってきている気がします。

南 確かに、そうした傾向はありますね。駅前にはたいてい再開発エリアがあって、目抜き通りはマクドナルドやスターバックスなどナショナルチェーンの店舗で占められます。そうした街を私は、「顔のない街」と呼んでいます。おそらく東京へのアクセスがよいとか、東京と同じ利便施設があることが、街の優劣を測る共通の価値観となってきているからなのでしょう。

地方や郊外の都市がみな揃って“プチ東京”を目指した結果、今どうなっているのかというと、人口減少や少子高齢化が進行、さらなる東京一極集中の波が押し寄せ、以前の勢いがすっかり失われてしまっているのは皮肉な気がします。

——衰退に歯止めを掛け勢いを取り戻そうと、様々な都市で町興しが企画されています。

南 それには無論賛成です。ただ気にかかるのが、B級グルメ、ドラマやアニメの舞台とか、他所から調達してきた素材やアイデアを看板に掲げているところが多いことです。瞬間では注目されるかもしれませんが、長らく人を呼ぶことはむずかしい。何よりその街の人にとって楽しい町興しきのコンテンツにはならないで

しょう。もっと自然で、その土地オリジナルの歴史や文化、風土に裏打ちされたものが街の顔であるべきだと思います。

“顔”がある街

——反対に個性が際立っている“顔”があると感じた街はありますか？

南 はい。しっかりと“顔”をもって勝負している印象深い街は沢山あります。

川越（2014年3月号）はその筆頭ですね。「小江戸」というコンセプトが、街の歴史や風景と寸分の狂いもなくマッチしています。「蔵の街」をうたう倉敷（2014年10月号）も同様でした。倉敷は川越より観光・商業目線で開発の手が入っていますが、背伸びせずに古くからの街の顔を保っています。食や生活にも独自のスタイルを残しており、訪ねるとワクワクした気持ちになるものです。

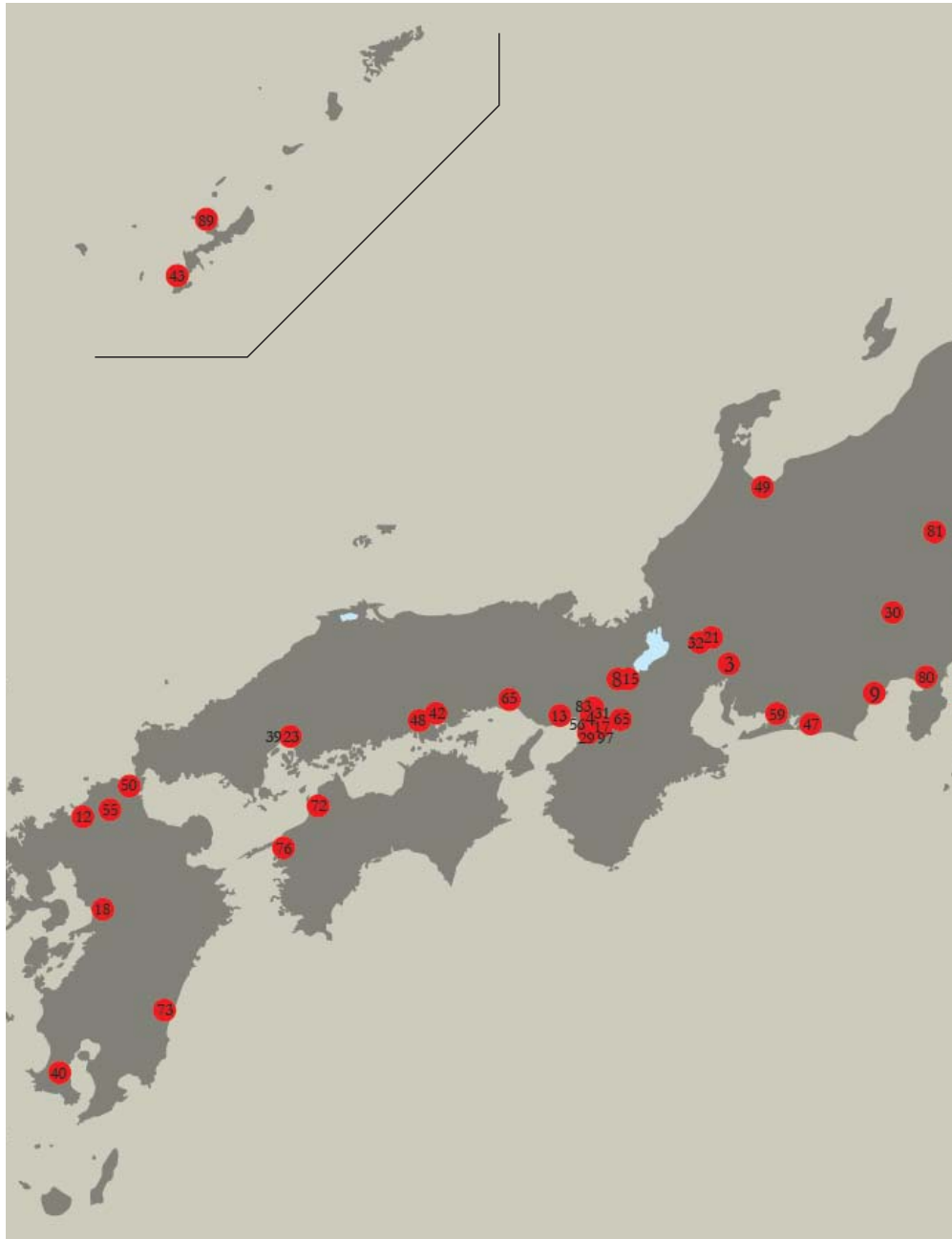
広島（2014年1月号）や静岡（2011年7月号）も顔がある都市です。横浜（2011年5月号）や福岡（2011年10月号）などに比べてわかりにくいのですが、両都市の特徴は一口に言うと、とにかく行き交う人たちが明るくて、街に活気があります。頑固に自分たちの姿を守っていて、東京（2011年8月号：番外編）や大阪（2015年6月号：番外編）などの大都市への劣等感が少ないという点が、都市の魅力につながっているのだと思います。

とくに活気があるというわけではないのですが、大津（2012年1月号）や甲府（2013年4月号）は、ともに長い歴史をもち、しかしそれを誇張しすぎることがなく、独特の魅力を発しています。これは一つの顔です。堺（2013年3月号）にも同じことがいえるでしょう。

——これといった歴史や文化がない街の嘆きも聞こえてきそうです。

南 異論はあるかもしれませんが、「無理して顔をつくりだそうと

「街を歩く」連載100回の歩み



- 1 ロサンゼルス(米国)
- 2 ロサンゼルス(その2)
- 3 名古屋
- 4 大阪
- 5 フォートローダーダール(米国)
- 6 札幌
- 7 横浜
- 8 京都
- 9 静岡
- 10 東京
- 11 ラスベガス(米国)
- 12 福岡
- 13 神戸
- 14 仙台
- 15 大津(滋賀)
- 16 さしたま新都心
- 17 大阪
- 18 熊本
- 19 宇都宮
- 20 幕張(千葉)
- 21 岐阜
- 22 筑波研究学園都市(茨城)
- 23 広島
- 24 熊谷(埼玉)
- 25 千葉
- 26 吉祥寺
- 27 上野
- 28 川崎
- 29 堺(大阪)
- 30 甲府(山梨)
- 31 阿倍野(大阪)
- 32 大垣(岐阜)
- 33 ボストン(米国)
- 34 ニューヨーク(米国)
- 35 羽田空港
- 36 福島
- 37 ボストン(米国)
- 38 ニューヨーク(米国)
- 39 広島
- 40 知覧(鹿児島)
- 41 川越(埼玉)
- 42 岡山
- 43 那覇
- 44 新橋
- 45 キーウエスト(米国)
- 46 有明・夢の島(東京)
- 47 浜松
- 48 倉敷(岡山)
- 49 富山

する」ことが街の本当の姿や歴史を歪めることにつながっているのではないのでしょうか。

たとえば、自然なかたちで街が再構築され、それが顔となりつつあるのが西川口（2018年5月号）です。風俗店が行政の規制強化で次々と退店しシャッター通りと化したのち、中国系の人々が移り住み飲食店を開き、活気を取り戻しています。これは移民が街をどんどん変えていったNY・クイーンズ地区のフラッシング（2018年1月号）に似ています。

あるいは、どの地方都市にも立派な駅ビルや再開発ビルがあり、ナショナルチェーンが顔を揃えています。しかしそれらがまったく昔ながらの街があったらどうでしょう。おじさん・おばさんが営む食堂や衣料店、銭湯…。多くの人はきっと不便に感じ

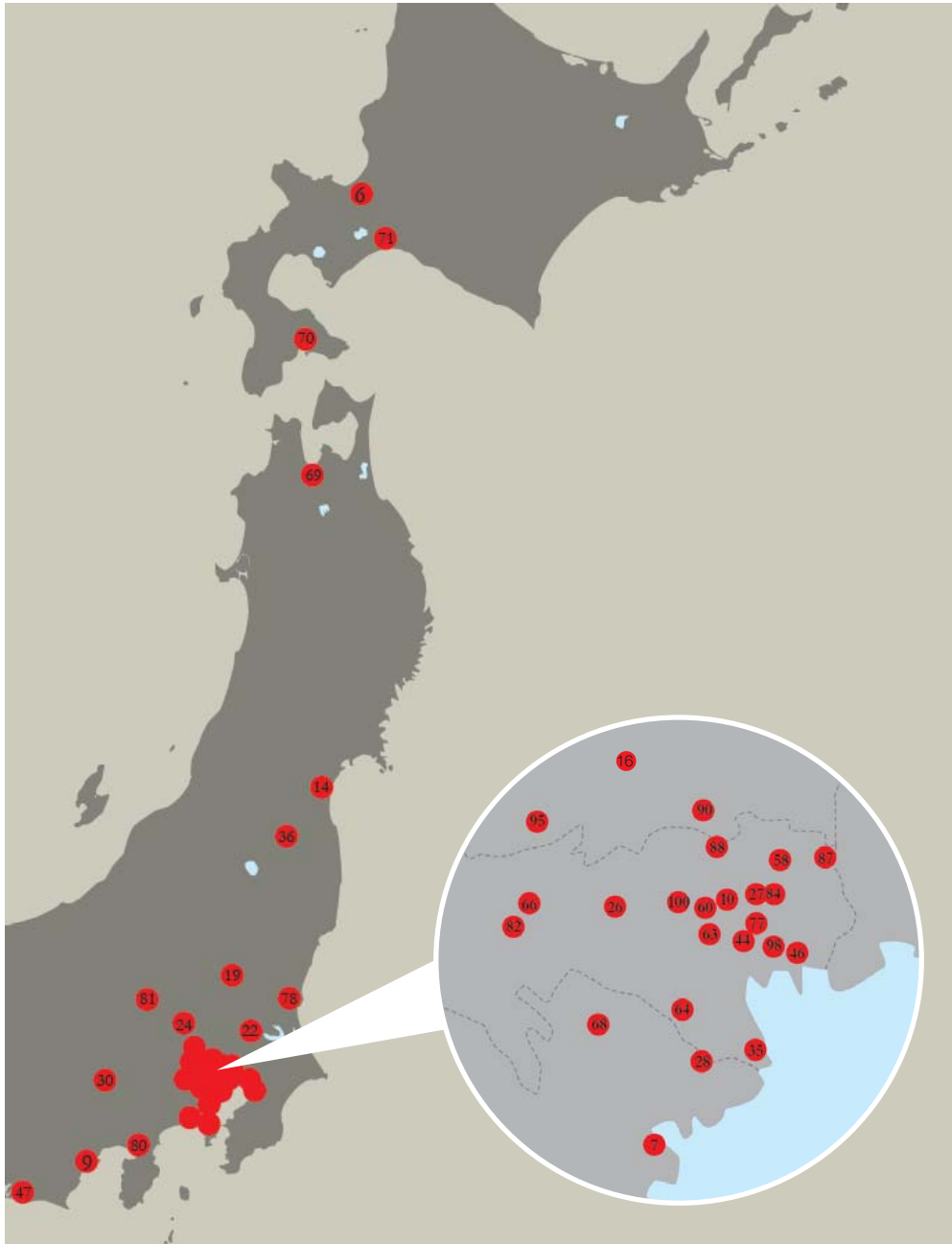
るはずですが。しかし、“金太郎飴的”な街ばかりが並ぶなかで、ひとつぐらいこうした街があったら、きっとタイムスリップしたような新鮮な感覚になるはずですが。

これらはあくまで極論であって、良いか悪いかを論じているものではありません。ただ、街の顔とはそうした自然さがもっとも大事であると思うのです。

他所を気にしないスタイル

——海外の街と日本の街を訪ねて、気づく違いはありますか？

実は米国や欧州にも、発展から取り残された街が多くあります。レストランもファストフードも地元経営の店舗で占められ、夜



- 50 北九州
- 51 ハワイ(米国)
- 52 ハワイ(その2)
- 53 ニューヨーク(米国)
- 54 ボストン(米国)
- 55 飯塚(福岡)
- 56 大阪
- 57 ニューヨーク(米国)
- 58 北千住(東京)
- 59 豊橋(愛知)
- 60 新宿
- 61 マニラ(フィリピン)
- 62 マニラ(後編)
- 63 表参道
- 64 田園調布(東京)
- 65 姫路
- 66 国分寺(東京)
- 67 奈良
- 68 たまプラーザ(横浜)
- 69 青森
- 70 函館
- 71 苫小牧(北海道)
- 72 松山
- 73 宮崎
- 74 ニューオリンズ(米国)
- 75 シンガポール
- 76 八幡浜(愛媛)
- 77 日本橋(東京)
- 78 水戸
- 79 横須賀(神奈川)
- 80 三島(静岡)
- 81 高崎(群馬)
- 82 国立(東京)
- 83 吹田(大阪)
- 84 浅草
- 85 タリータウン(米国)
- 86 フラッシング(米国)
- 87 柴又(東京)
- 88 赤羽(東京)
- 89 沖縄・美ら海
- 90 西川口(埼玉)
- 91 辻堂(神奈川)
- 92 シカゴ(米国)
- 93 シカゴ(その2)
- 94 ハーレム(米国)
- 95 所沢(埼玉)
- 96 リトルイタリー&チャイナタウン(米国)
- 97 八尾(大阪)
- 98 豊洲(東京)
- 99 マリナ・デル・レイ(米国)

9時を過ぎるとシャッターが下り、街のメインストリートですら真っ暗と化すところも珍しくありません。日本と決定的に違うのは、そこに住む人々は他所の街のことを比べたり意識したりしていないこと。何より自分たちの暮らしの楽しみを優先しているのです。

日本の街はこうした欧米のスタイルから学ぶべきことがあると思います。無論、これは育った街の歴史・コミュニティをどのように捉えるかという価値観そのものに根付いた問題ですので、勉強して真似できるかはわかりません。それでも、自分たちの街の立ち位置を考えるうえで大きなヒントになると思うのです。

街を訪ねるとき、私は街の構造や生活文化的な特徴だけでなく、人々の表情を見るようにしています。楽しそうにしているか、笑っているかいらないか。その観点でみると、面白いことに、グ

ローバルスタンダードから隔離された小さい田舎町ほど表情が柔らかくフレンドリーであることに気づきます。街が整備され、どこかで見たような顔がつくられると、人の表情はどんどん硬くなってくる。これは経済的な豊かさと比例するものではありません。

——最後に、これからの連載に向けた抱負をお願いします。

南 連載では101回以降も引き続きさまざまな場所を訪れ、ときには厳しい提言も交えながら、日本各地にまだまだ残る元気な街や、わが道を行く遅い都市を見つけていきたいと考えています。また内容を少し発展させ、街の顔や独自性を星で評価する私家版ガイドブックのようにしていきたいですね。

——ありがとうございました。